

カッター部 東海大会優勝！

10月15日、三重県鳥羽市で行われた東海地区の大学・高専・高校のカッター部が集う東海大会に出場し、優勝しました。部長の感想を掲載します。



東海大会を終えて 端艇部部長 山崎 裕士

第88回東海大会に私たちは初出場で優勝という結果を残すことが出来ました。タイムや実力的な面では2位だったのですが、決勝戦で1位のチームが回頭ブイにオールを当ててしまうという失格で私たちが、繰り上がり優勝となりました。

クルーはレギュラーメンバーが揃わず、補欠クルーが3名入る編成でした。練習もあまり多くないままレースに挑み、開会前は勝てる自信が全くありませんでした。行動面や他校への礼儀や挨拶なども注意されてばかりでした。皆で気合を入れなおして挑んだ1回戦は、先着で帰ってきたものの、予選の中ではタイム的に2位でした。1位との差が大きくなり、2レース目の決勝戦の前には全員の緊張感が変化した気がしました。1レース目の反省を踏まえて挑んだものの結果は2位でした。対戦校の失格に気づかず、疲れ切っていたので悔しい思いをしていました。数年前に同様のことがあったので、繰り上がりのことを聞いても、部員は誰一人として歓喜の声は上げませんでした。顧問の西山先生はそのことを誇りに思ってくれました。

大会というものに初参加の1年生も現在中心となっている2年生も、部員一人ひとりがこのような体験をし、思ったことがあるはずです。他校チームの実力を改めて知り、来年夏の全国大会への心構えが造られたと思います。そんな部員一人ひとりを信じ、助け合いながら日々全国大会に向け練習を重ねていきたいです。

宿泊防災訓練を終えて

東日本大震災以降1年生で行ってきたこの行事を、今年は10月9日・10日に行いました。災害時には、自助・共助・公助の力が協力し合い、できるだけ被害を抑えることが大切です。生徒の感想の中に、他人を助ける行動ができるようになりたい。という言葉が多数読み取り頼もしく思いました。こんな感想もありました。「この訓練を通し、少しでも震災にあった方の気持ちを知ることができて良かったと思う」

今回、大島町消防本部の方々に、AEDの使用法、簡易担架による搬送、三角巾による包帯法のご指導をお願いしました。救命という言葉は重いですが、瀕死の方に居合わせた場面で、少しでも手伝いができる資質や精神の訓練ができれば良かったと考えています。

年内にまだ他の訓練もあります。生徒の皆さんには今後の身の安全の為、訓練には真摯に参加して欲しいと思っています。よろしくお願いします。

(原田 副校長先生)



2年生国際系航海学習

2年生国際系の航海が、1次10月6日～15日、2次20日～29日で行われました。小笠原寄港を目指したものの、どちらの航海も事情により神戸寄港に変更になりました。生徒の感想を掲載します。

航海を終えて

2年A組 榎本 俊哉

自分は航海を終えて、まず思うことは大島丸に乗ることができて良かったということです。本当に貴重な経験になったと思います。そう思った理由を挙げていきたいと思います。

まず、1つ目はやはり『協力』です。これまでの人生でレポートなどをグループで作ったりする際に多少の協力はしてきました。しかし、乗船して仲間や自分が酔ってとても辛い時でもワッチをしなければいけなかったり、動ける人達で食事の準備をしなければいけないという状況での協力は全く違うものがありました。特に自分達の班は1人少ない4人班な上に、揺れている時は1人、もしくは2人動けない状態になってしまうことが多く、少ない人数で気象観測や操舵などの仕事を行ってきました。それでも恨んだりすることなく助け、自分が辛い時に助けてもらえた時は、とても嬉しかったです。

2つ目は、良い意味でプライドを打ち砕かれたことです。昨年度の基礎航海の際は、酔ってはいましたが、吐きたくな



いというプライドで何とか押し殺し、乗り切りました。しかし、その時は吐かないという目的だけのために最終日は動くことができませんでした。今年はどうしても耐えられず吐いてしまった後、スッキリして動けるようになり、吐いていない周りの人を見て悔しくもなりましたが、その人より動けてればその方が良いと思い直せたので良かったと思います。

最後に、様々な人とコミュニケーションをとり、色々な話を聞き出し、関われたことに感謝します。海洋系に比べ、知識は少なく、覚悟も無かったかもしれませんが自分は国際系ならではの学び方ができたと思います。大島丸の船員の方々、I次航海の2人の教官、I次航海のメンバー、この班で乗船できたことはいい経験ですし、嬉しく思います。ありがとうございました。



大島町駅伝大会 高校生の部・女子の部で優勝！



10月30日、小雨の中、第60回大島町体育祭駅伝徒競走大会が行われました。全38チーム、本校からは高校生の部に4チーム、女子の部に2チーム、職場の部に先生方が1チーム出場しました。男子の部「海国韋駄天連U-18」が総合でも3位、高校生の部で優勝、「温泉同好会」が、女子の部で優勝となりました。「ビギナーズ」の植木志遠君が6区で区間賞となりました。

学校祭報告

金銭取扱い団体の決算が終了しました。収益は全額各所に寄付いたしました。

- | | | |
|-------------------|------------|--------------|
| ① 1A・1B・2B・3A・潜水部 | 計 39,993 円 | 社会福祉協議会へ |
| ② ボランティア部 | 88,220 円 | 熊本地震義援金へ |
| ③ 図書委員会 | 94,750 円 | 大島第三中学校・町役場へ |
- 御協力いただいた皆様、ありがとうございました。

10月25日 ウズベキスタン ノリコ学級（日本語学校）訪問

【ノリコ学級について】

ウズベキスタンの町リシタンにある日本語学校で、20年にわたって日本語と日本文化を学ぶ拠点となっている施設である。長期滞在する日本人や、そこを立ち寄る旅行者がボランティアで日本語を教える。

【訪問の様子】

玄関先で「マディナと申します。こちらはマフトゥナです。」と流暢な日本語での自己紹介から始まりました。CALL 教室では10名の海国生が出迎え、2人の学生から母国と母校についての発表をしてもらいました。山寺校長への表敬訪問の後、海国生とともに武道場で見学した郷土芸能部の御神火太鼓の発表にはガニシエル校長先生も2人の学生も感激していました。お返しに、学生2人からウズベキスタンの踊りを独特な衣装で披露してもらいましたが、2曲目には『千本桜』を使ったダンスに海国の若者も大喜びでした。記念撮影の後にも、名残惜しく、その場でそれぞれの記念撮影をしながら交流を深め、玄関前では車が見えなくなるまでお見送りしていました。ガニシエル校長先生からは、是非ウズベキスタン、ノリコ学級を訪問して、学生たちに日本語を教えてあげてほしい、とのラブコールもありました。さらなる国際交流のきっかけにしたいと思います。（国際部：鈴木先生）



中学生の皆さんへ

12月3日、部活の体験をしてもらう機会を設けました。興味のある方はぜひ参加してください。学校ホームページから御応募お待ちしております！ 写真は10月22日の様子です。

